

十和田市事務事業評価シート

【事務事業の概要】

整理番号	87	実施計画番号	8	
事務事業名	上水道第7次拡張事業		事業開始年度	平成23年度
担当課名	水道課		事務の種類(選択)	自治事務
根拠法令等	水道法、地方公営企業法	関連事務事業		
背景や経緯等	平成17年、合併により新十和田市が誕生したが、旧市と旧町の水道施設の整備水準に大きな格差があり、旧町施設の大半は老朽化が著しく、地理的、地形的条件から多数の小規模な水源を利用しているため非効率的で水量面、水質面に不安を抱えていた。			
事務事業の目的	同一行政区域内1上水道事業を目指し、12地区簡易水道、39箇所の小規模水道を上水道区域に編入できるよう計画し、安全で安心して使える水道水の普及率を100%まで近づける。			
実施状況	平成24年度は計画どおり事業が行われた。また、新たに百目木地区簡易水道を上水道へ編入するための経営変更認可申請を県に提出した。			

【人件費の推移】

		23年度実績	24年度実績	25年度計画
正職員	従事者数(人)	3	3	3
	活動日数(日)	243	243	243
	人件費(千円)	26,244	26,244	26,244
正職員以外(選択↓)	従事者数(人)			
	活動日数(日)			
	人件費(千円)			

【事業費の推移】

事業費合計(千円)	23年度実績	24年度実績	25年度計画
	67,200	306,911	402,900
うち一般財源		16,671	15,420
うち国県支出金	18,380	80,940	106,680
うち地方債	48,820	209,300	280,800
うちその他			

【指標】

活動指標	活動指標名①	事業の進捗率				
	計算式等	単位	23年度実績	24年度実績	25年度計画	
	執行額/全体事業費	%	4	20	26	
	活動指標名②					
	計算式等	単位	23年度実績	24年度実績	25年度計画	
成果指標	成果指標名①	上水道の普及率				
	計算式等	単位	23年度	24年度	25年度	
	給水人口/行政区 域内人口	%	目標値	96	96	96
			実績値	90	96	
			達成度(%)	94%	100%	
	成果指標名②					
	計算式等	単位	23年度	24年度	25年度	
		目標値				
		実績値				
		達成度(%)				

十和田市事務事業評価シート

整理No	87
計画No	8

【担当課による検証】

ポイント		検証(選択)	評価	点数	合計	検証の理由				
妥当性	① 市民ニーズ等から見る妥当性 市民ニーズや時代潮流の変化により、事務事業の役割が薄れていないか	A 薄れていない B 幾分薄れている C 薄れている	A	2	4	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">存在意義の見直しの余地</td> <td style="text-align: right;">0 / 4</td> </tr> <tr> <td colspan="2">水道事業の経営主体は原則として市町村であることから、行政が将来を見通した需要に対応できるよう事業を継続していくことは妥当である。</td> </tr> </table>	存在意義の見直しの余地	0 / 4	水道事業の経営主体は原則として市町村であることから、行政が将来を見通した需要に対応できるよう事業を継続していくことは妥当である。	
	存在意義の見直しの余地	0 / 4								
水道事業の経営主体は原則として市町村であることから、行政が将来を見通した需要に対応できるよう事業を継続していくことは妥当である。										
② 実施主体である妥当性 行政が実施することが妥当か(民間と競合していないか)	A 妥当である B あまり妥当ではない C 妥当ではない	A	2							
有効性	③ 活動指標から見る有効性 活動指標の実績は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A	2	6	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">成果向上の余地</td> <td style="text-align: right;">0 / 6</td> </tr> <tr> <td colspan="2">活動指標及び成果指標ともに順調に推移しており、今後の事業継続により更に成果の向上が見込まれる。</td> </tr> </table>	成果向上の余地	0 / 6	活動指標及び成果指標ともに順調に推移しており、今後の事業継続により更に成果の向上が見込まれる。	
	成果向上の余地	0 / 6								
	活動指標及び成果指標ともに順調に推移しており、今後の事業継続により更に成果の向上が見込まれる。									
④ 成果指標から見る有効性 成果指標の目標達成状況は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A	2							
⑤ 事務事業の見直しの余地 成果を向上・安定させるため、事務事業の見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A	2							
効率性	⑥ 事業費の削減の余地 事務手順の見直しや正職員以外での対応により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2	6	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">コスト削減の余地</td> <td style="text-align: right;">0 / 6</td> </tr> <tr> <td colspan="2">国・県と連携し、技術的・財政的観点から効率性の確保に努めている。</td> </tr> </table>	コスト削減の余地	0 / 6	国・県と連携し、技術的・財政的観点から効率性の確保に努めている。	
	コスト削減の余地	0 / 6								
	国・県と連携し、技術的・財政的観点から効率性の確保に努めている。									
⑦ 他の事務事業との統合・連携 類似又は関連事業との統合・連携により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2							
⑧ 民間委託等 民間委託・指定管理者・PFI等により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2							
公平性	⑨ 受益の偏り 現在の受益は公平か。特定の個人・団体に受益が偏っていないか	A 偏っていない B 多少偏っている C 偏っている	A	2	4	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">受益者負担適正化の余地</td> <td style="text-align: right;">0 / 4</td> </tr> <tr> <td colspan="2">同一行政区域内の水道サービスの公平性の観点から、上水道区域に簡易水道及び小規模水道を編入する計画に受益の偏りは無い。</td> </tr> </table>	受益者負担適正化の余地	0 / 4	同一行政区域内の水道サービスの公平性の観点から、上水道区域に簡易水道及び小規模水道を編入する計画に受益の偏りは無い。	
	受益者負担適正化の余地	0 / 4								
同一行政区域内の水道サービスの公平性の観点から、上水道区域に簡易水道及び小規模水道を編入する計画に受益の偏りは無い。										
⑩ 受益者負担の見直しの余地 現在の受益者負担は適切か。見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A	2							
現在の適性					20 / 20	改善の余地	0 / 20			

【点数化による検証】

当該事業の現在の適性は20点中 **20** 点です。

当該事業の改善の余地は20点中 **0** 点です。

【担当課長による評価】

当該事業の平成25年度の方向性(選択) ⇒ **現状のまま継続**

方向性の理由
事業計画に沿って順調に推移しており、着実な事業遂行によって、安全で安心して使える水道水の普及率の向上を目指す。
今後の具体的な取組方策と狙う効果
拡張区域において、取水・配水システムの再編や水道管網の再構築を行い、施設の耐震性向上と事業経営の効率化を図る。